

滋賀の文化情報誌

デュエット

# Duet

2016 秋 vol.121

特集

## 琵琶湖博物館 第1期リニューアル!

新撰 淡海木間撰 65

小型横型水冷ディーゼルエンジンHB型

INFORMATION STATION 催し案内 2016 秋

MYBOOK 自費出版物の紹介

SUNRISE BOOK PRESS サンライズ出版の新刊案内



特集

# 琵琶湖博物館 第1期リニューアル!

滋賀県立琵琶湖博物館は、1996年10月20日の開館からまもなく丸 20 年を迎えます。さらなる展示内容の充実をめざして、7月14日には、琵琶湖の環境と人々の暮らしを紹介する C 展示室と、淡水生物対象では日本最大級の規模を誇る水族展示が展示を一新、リニューアルオープンしました。

担当学芸員の亀田佳代子さん、桑原雅之さん、大島由子さんにそれぞれの展示についてお聞きしました。

## ■滋賀県立琵琶湖博物館

住 所 草津市下物町1091

連絡先 TEL 077 (568) 4811 FAX 077 (568) 4850

観 覧 料 企画展示：一般200円、高・大学生160円、小・中学生100円  
常設展示：一般750円、高・大学生400円、小・中学生 無料

アクセス JR 草津駅西口から近江鉄道バス「からすま半島」行きで「琵琶湖博物館前」下車／名神栗東 IC から車で約25分

取材／編集部 写真／平田尚加 (表紙&インタビュー)・辻村耕司 (展示室)



滋賀県立  
琵琶湖博物館



水族展示のトンネル水槽  
(次ページ区画図の 1)



2



3



4



1

←左写真から時計回り順に

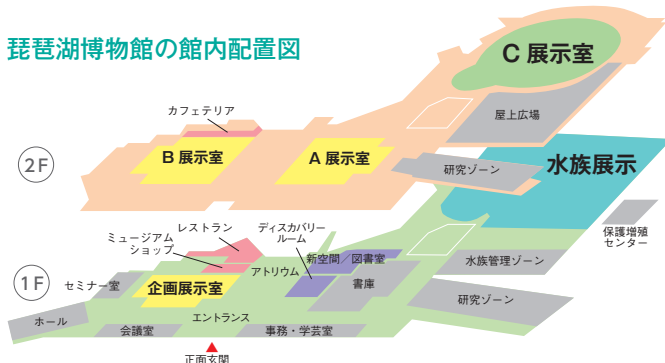
2 背の高いヨシを分け入り、展示へ  
5 彦根市から移築された民家「富江家」は、以前のままの位置に

2 琵琶湖特産の魚介類と料理が並ぶ「川魚屋 魚滋」

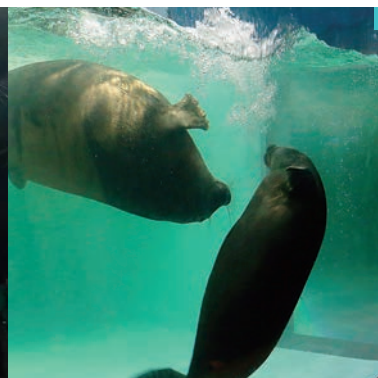
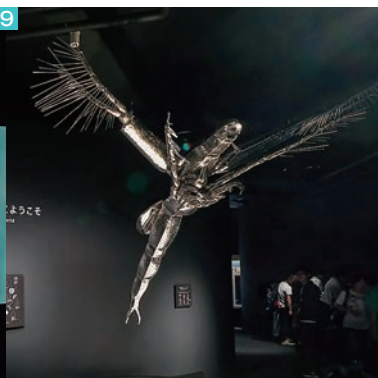
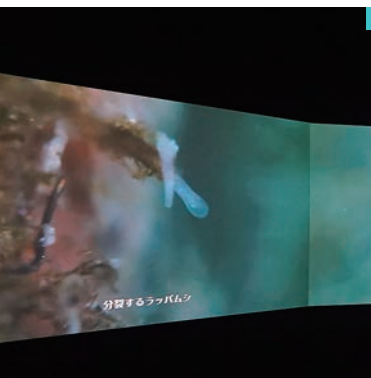
6 [右] バイカル湖（ロシア）のヨコエビ類（琵琶湖博物館提供）／ [左] バイカル湖にすむバイカルアザラシ

9 [右] ミジンコ類の中で最大種であるノロミジンコの巨大オブジェ（全長2.5 m）／ [左] マイクロワールドシアター

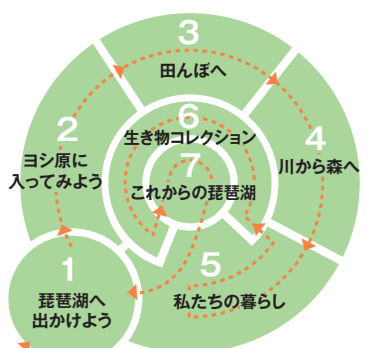
## 琵琶湖博物館の館内配置図



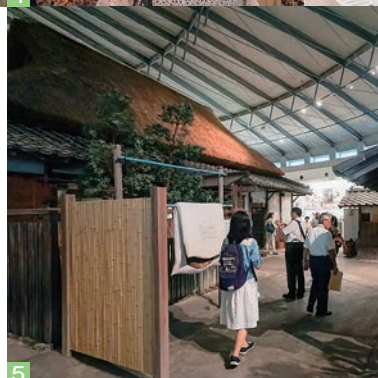
9



6



5



2

C展示室リニューアルについて

展示を見たあと、

身近な風景の中に新たな発見が  
できることをめざしました。

滋賀県立琵琶湖博物館 総括学芸員 亀田佳代子さん



C展示室の4「川から森へ」のカワウのすみ森の前にて「今回のリニューアルでは、さまざまな成分を組み合わせ、匂いをつくっている会社に依頼し、ふなずし、ヨシ、スギ・ヒノキ、そしてカワウの森の匂いを人工的に再現してもらいました」

## 一番まとまりのないところからリニューアル？

—C展示室リニューアルの責任者ということで、経緯をざっとお話いただけますか。

亀田 リニューアルの話が持ち上がったのが3年前（2013年）で、翌年には具体的な計画を作成しました。C展示室担当の学芸員全員がそれぞれどんな展示をつくりたいかアイデアを持ち寄るようなかたちでしたが、C展示室は特に関わる学芸員が多いので、限られたスペースの中に、どういうバランスではめ込んでいくか、初期の段階ではなかなかまとまらなくて。

正直、C展示室と水族展示という、一番まとまりのないところからリニューアルしたいのかもしれないと思いました。

—第1期リニューアルがC展示室と水族になったのは、建物の構造上の理由ですか。

亀田 はい。建物として渡り廊下で別棟になっているので、分離して改修ができますから。もう一つの大きな理由として、当館で比較的人気が高く、館の特徴といえる展示室が、水族展示とC展示室だったからです。来館者に人気のある展示を大きく変え

ることで弾みをつけ、次の屋外展示やディスプレイバールームのリニューアルにつなげるという意味合いですね。

—それでは順番に見ていきます。最初が1「琵琶湖へ出かけよう」。

亀田 全体の導入部分にあたるわけですが、実は以前の展示では、琵琶湖博物館でありながら、琵琶湖のことをちゃんとまとめて紹介した展示がなかったんです。あちこちに散らばってはあったのですが。それをまとめて展示したのが、このコーナーです。

—床面の航空写真（1万分の1縮尺）は、そのままなんです。



## プロフィール

かめだ・かよこ／1966年、神奈川県生まれ。1996年12月より滋賀県立琵琶湖博物館勤務。

**亀田** 正面の壁面に「みんなでつくるびわこアルバム」と題して、一般から募集した琵琶湖岸の風景の写真を展示しています。今後も違ったテーマで募集して、変更していきます。きれいな写真だけではなく、あまり楽しくはない写真をテーマにすることもあるかもしれません。それらを紹介しながら、来館者にいろいろなことを考えてもらえるコーナーになればと思います。

—そして、次のコーナーへのコースが逆回転になったんですね。時計回りに。

**亀田** そうなんです。以前の展示では次に富江家という移築民家で昭和30年代の暮らしを体験し、人家の周囲に広がる自然につながる流れだったのですが、今度は琵琶湖から川を上流にさかのぼっていく流れで展示しています。最上流の森まで行き、その後で富江家の暮らしを見るという順番です。

②「ヨシ原に入ってみよう」は、ヨシの繁みに分け入るようで驚かされます。

**亀田** 緑色の葉のものはレブリカですが、冬のヨシは、実際のヨシを加工してできています。湖畔の典型的な風景であるヨシ原にすむ生き物と、ヨシを利用する人の関わりを同時に紹介しています。生き物では日本最小のネズミであるカヤネズミ、人の利用では近江八幡周辺の火祭りで使われるヨシ松明やヨシ簀、ヨシ紙などですね。

—続いて、③「田んぼへ」。

**亀田** 湖岸に近い、平野部の田んぼを表現しています。フナを上らせるための魚道を設置した田んぼを例に、そこにすむ多数の小さな生き物やそれらとフナの稚魚との関

## 20年を経て時代の変化にあわせた展示に

—続いて、④「川から森へ」は、亀田さんがご専門のカワウも入っています。

**亀田** 森林の変遷が専門の林竜馬学芸員らと展示を作ったのですが、普通に「森は美しい、すばらしい」ということを表現するのではなく、増えすぎたシカやカワウの問題もふくめて、森の生き物と人との複雑な関係を伝えようと思いました。

—癒される空間ではなく、問題ぶくみの森ですね。

**亀田** そうです。現在の森にはこういう問題があるというのを見ていただいたうえで、これから私たちはどうしていったらいいのかを考えてもらえる展示をめざしましたが……、展示は難しいですね。削って、削って、削って（笑）、伝えたいことが10あるうち、1のエッセンスを残した感じです。

⑤「私たちの暮らし」は、以前の展示にもあった富江家がメインになっています。

**亀田** 以前、最初の航空写真のあるコーナーの壁面に展示されていた、時代をさかのぼる展示がこちらに移動されています。20年前の開館時には、祖父母や両親世代が、昔の生活に関する記憶をいろいろ語ってもらったことができたのですが、だんだん時代が変わってきました。祖父母世代でも、こうした暮らしを経験していない人が増えていく、まったく未知の暮らしという位置づけになることが予想されるので、少し解説を追加したりもしています。

係を紹介し、人の食糧である米を生産しているだけでなく、そうした生き物が生活できる場所を提供しているのが田んぼだということがわかる展示になっています。

—続いて、展示室中央の丸い部分にある、⑥「生き物コレクション」。

**亀田** この20年間で、少しずつ生物標本も増えてきたので、滋賀県の生き物の多様性や、琵琶湖水系にしかない固有種などを本物の資料で紹介するコーナーとなりました。滋賀県に生息する鳥類の剥製はありったけ出しました。

以前は包埋標本といって、魚を樹脂で固めた標本がたくさんありました。当時は最新技術だったのですが、20年もたつと気泡が出たり劣化してきて、貝などの硬いものだといいのですが、魚はだんだん見るにたえない状態になってしまいました。水族展示の方で本当に生きている魚や生物を見られるので、こちらはレブリカや液浸標本（ガラスびんに入ったアルコール漬け）です。

⑦「これからの琵琶湖」は、学芸員の研究成果を発表するスペースですね。

**亀田** はい。学芸員5人が1年間展示を続けて、次の年には、別の5人に交代するかたちになります。学芸員だけでなく、地域の皆さんによる調査の結果も公開する場所であり、真ん中のステージのようになったところは、当館の利用者参加制度であるフィールドレポーターや「はしかけさん」グループによる調査を公開しています。また、タッチパネルの画面で学芸員に対する質問や展示を見ての感想を書き込んでいただけます。それに対して学芸員が返事をする、そのやりとり自体を公開する場になっています。



水の流れをさかのぼるハスたち

## 水族展示リニューアルについて

古代湖としての琵琶湖にすむ生き物と  
私たち人の暮らしとの関わりについて  
感じてもらえるような展示を目指しました。

## ビジョンから基本計画へ

水族展示のリニューアルについて、経緯をお話いただけますか。

桑原 2013年に今回の水族とC展示室だけでなく館全体のリニューアルの方向を示すビジョンを作成し、2014年に基本計画の作成という段階に進み、そこから、水族は私が、C展示室は亀田が総括というかたちで関わるようになりました。

水族の場合、ビジョンの段階で、「人の関わりを表に出す」といった大枠は決まっていたのですが、より具体的に検討し

ていくと、その生き物が飼えるか、飼えないかという問題があるんです。ビジョンでは、展示の構成のおもしろさを優先して生き物を選んでいった面があった。

## 例えば、何が飼えないのですか。

桑原 難しいのは、例えば、甲殻類ですね。スジエビ、テナガエビ、ヨコエビなどは長期間の飼育は難しいんです。開館から20年、エサや設備の改良などの工夫でいろいろな生き物が飼えるようになりましたが、

絶滅危惧種の魚などが難しいわけでも

ないので。

桑原 飼うだけなら比較的飼いやすいものが多いんです。どこにでもいるような魚、珍しくもないと思われているやつが、意外と飼えないんです。さっき言ったスジエビなんかは、そうです。

大豆と炊いたエビ豆は滋賀の郷土料理ですが、スジエビは飼育できないのですか。

桑原 そうなんです。20年かかって、まだうまくいっていないものを、計画から2年で実現するのはちょっと無理だろうということ、その辺を修正していったという流れですね。

滋賀県立琵琶湖博物館

総括学芸員

桑原雅之さん

水族展示の③「川の生き物とその環境」にあるカッター筏の前にて

「一番苦心したのは、水が動いているように見せることです。最初は普通の川の流れの雰囲気が出なくて、砂を入れてみたらと提案したり、かなり試行錯誤しました」

1 「琵琶湖の生き物とその環境」はト  
ンネル水槽もふくみますね。

桑原 (展示室は展示物をそっくり除いて新たに作り直すことができたのですが、水族展示の場合、大型の水槽は固定ですから、配置はそのままが大前提でした。

トンネル水槽は、岩場を表現した擬岩が  
だいたい傷んできたので取り去り、濃いブ  
ルーの沖合のイメージにしました。一番大  
きな変更点は、以前は自然水温だったもの  
を水温調節ができるようにしたことです。  
これは沖合の低水温域にすむビワマスを泳  
がせるためです。

次の2「琵琶湖の生き物と人の暮らし」は、大きく変わった印象があります。高島市にある実際の魚屋さんの店頭が再現されていて、ふなずしの匂いがかかるコーナーがあったり。

桑原 そうした「食べる」という視点からの展示と、もう一つ、力を入れた展示があります。外来種としてのブラックバスやブルギルは誰もが知る存在になったので、近年ようやくスポットがあたるようになった国内外来魚について紹介している部分です。

琵琶湖のワカサギは10年余り前から急に増え出し、アユの稚魚に混ざって獲れるのが漁師さんから嫌われていたんです。とこ



## プロフィール

くわはら・まさゆき／1959年、長崎県生まれ。1984年より滋賀県立琵琶湖文化館勤務。1996年4月より滋賀県立琵琶湖博物館勤務。

ろが、近年、アユの漁獲減少が続くと、食べておいしく、比較的高値で売れるワカサギが漁獲対象として重要になってきています。とても皮肉な状況ですよ。

オヤニラミは、京都府の由良川から西に  
すんでいて、環境省のレッドリストに載つ  
ている絶滅危惧種です。本来、保護すべき  
魚なのですが、誰かが滋賀県で放流して定  
着してしまったために、滋賀県では指定外  
来種、つまり駆除の対象になってしまっ  
ています。これまた皮肉な状況です。

次の3「川の生き物とその環境」の見所は、新たに登場したカトリやな染ですね。

桑原 カットリ簾は、高島市の安曇川などの河口付近に簾を張り、遡上さくじょうしてくる魚を獲る伝統的な漁法です。水槽の中の魚に動きをつけたいという意見が出たので、これを再現することにしました。ただ、この水

槽では季節に合わせて、下流域での魚の生き様を展示したいと考えています。ですの  
で、築の期間は4月から7月ぐらいまでとし、秋以降は産卵するアユやビワマスの姿  
を見ることのできる場にする予定です。

——いくつか飛ばして、⑥「古代湖の世界」バイカルアザラシについては別ページで大島さんにお話をうかがっています。

ある世界最古の古代湖で、同じ古代湖である琵琶湖よりもはるかに長い歴史をもっています。

国内初飼育の魚もいるのでは

桑原 全部が初です。バイカル湖の魚、ヨコエビ類は、日本のあちこちに標本展示はあるのですが、生きた姿を展示したのは1997年に当館が開催した「古

代湖の世界」展がおそらく国内唯一で、海外でもほぼないと言っていると思います。

比較の意味で、アフリカ大地溝帯に形成されたタンガニーカ湖とマラウイ湖、それにヴィクトリア湖という3つの古代湖も紹介しています。特に、タンガニーカ湖とマラウイ湖は比較的距离が近いのですが、それぞれ湖ですんでる魚の雲囲気が異なるるところを見ていただければと思います。

それぞれで独自に進化したのですね。

桑原 ヱイクトリア湖は、1980年代に食用魚のナイルパーチを放流したところ、もともと400種類もいた固有種が半分ぐらいに減少してしまったという、琵琶湖と似たような問題をかかえています。バイカル湖もふくめて、琵琶湖との対比はともおもしろいので、パネルなどの解説をじっくり読んでもらえるとありがたいですね。カッタリ築の展示と並んで、「古代湖の世界」は、私としては一番力が入っています。

——またいくつか飛ばして、最後に、9「マ  
イクロアクアリウム」。

桑原 琵琶湖の生態系を底辺で支える、プランクトンなどの小さな生き物に焦点を当てた展示です。成安造形大学（大津市）の協力も得たノロミジンコの巨大なオブジェが最初にどんと出てきます。肉眼では見えない生き物たちなので、顕微鏡やモニターなど、見せ方がいろいろ工夫されています。

——マイクロワールドシアターは、腰を下ろすと見続けてしまいます。単純な動きをするだけなのですが、あきません。

桑原 最近、各地の水族館でクラゲの水槽がずいぶん人気ですが、あれに近いかもしれません。変わった形の生き物が、特別何かするわけでもなく、一定のリズムで動いていると、なんとなく癒やされる。そんな感覚かなと思います。

琵琶湖博物館にやってきたバイカルアザラシについて

# 「太ってる！」と子供が騒ぐぐらいの体格でいてももらえるように気をつけています。

滋賀県立琵琶湖博物館学芸員・獣医師 大島由子さん

— アシカやアザラシというと、水生の特殊な哺乳類というイメージですが、それ専門の勉強もなさったのですか。

大島 大学では、一般的な動物の体として学ぶので、専門的なものはないんです。

— 哺乳類なら、みんないっしょだと。

大島 いっしょです。一応、ウシだと胃がたくさんあるよとか、ひと通り教わりますが、ほとんど就職してから独自に勉強して実践するという感じです。

— 実際に何か病気やけがを治療した経験はありますか。

大島 いろいろあります。アザラシですとお互いに噛み合って、傷が深いと中で膿んでしまったり、熱中症にもなりますし。バイカルアザラシ以外の18種類のアザラシは海水で生活しているので、負担がかかりやすい腎臓の病気になることもあります。

— アザラシというのは、身近な哺乳類だと何に近いのですか。

大島 祖先はイヌと同じといわれています。

— 人なつっこいところとか。

大島 そうですね。飼育していても、根っこはイヌっぽいのかなと思います。そこに野生動物本来の本質が入ってくるといえますか。

— 何か芸を教えたりもできるのですか。

大島 くるくると顔を水から出したまま回ってくれたり、左の前足をパイパイのようには振ってくれたりとかします。こうした行動はそれにつながる動きを少しでもしたらほめてあげて、少しずつ少しずつ誘導しながら覚えさせたものです。合わせて人間が似たような動きを合図として行うので、まねをしているようにも見えますが、模倣行動ではありません。

— 福岡の水族館からの2頭、雄のバイと雌マリともに13歳だそうです。人間でいえば何歳ぐらいにあたるのですか。

大島 だいたい倍ぐらいと考えていたたいくらいかと思います。ですから、繁殖適齢期にあたります。夫婦かといわれると難しいのですが、そろそろいい仲間になつてく

るぐらい。

— 今後の繁殖も見越して、この2頭だったわけですね。そうすると、近々かわいい赤ちゃんが見られるかもしれない。

大島 期待はしています。

— 食べているエサは、魚ですか。

大島 魚です。琵琶湖博物館に来てから、琵琶湖でとれたウグイやハスを食べてもらっています。結構好きみたいで、喜んで食べてくれるんです。前の福岡では他にいっぱい海水の動物たちがいるので、その子たちと同じエサを真水で解凍して塩分を抜き、あげるかたちでした。どうしても海水魚の方が安定的に仕入れることができるので。

— それは、琵琶湖博物館に来て2頭にとってはよかったですね。

大島 淡水魚ならではのぬめりといいますが、そういったものを喜んで食べている印象があります。ただ、本来のバイカル湖では、もつと脂の強いカジカ類や甲羅の硬いエビも食べているので、脂分を取らせるために海水魚も混ぜてあげています。

— 寒いところの動物だから、脂肪量を維持する必要がありますね。

大島 体脂肪が45%あるといわれています。バイカル湖は夏には気温30℃ぐらいになる日もあるそうですが、水温は12℃ぐらい、日本の湖と違い、低いまなんだそうです。

— 世界一深い湖（最大水深1740m）ですからね。

大島 特殊な環境で生活をしている生き物なので、体の脂肪が落ちないように、「太ってる！」と見に来た子供たちが騒ぐぐらいの体格でいてももらえるように気をつけています。夏（取材は8月上旬）はまだ細くて冬場になると、もつと丸々としてきます。

— 半年後を見てくれというわけですね。

(2016.8.5)



## プロフィール

おおしま・ゆうこ／1981年、北海道生まれ。国内水族館にて主に海生哺乳類の飼育員兼獣医師として勤務、2016年4月より滋賀県立琵琶湖博物館勤務。



↑エサやりは、午後1時30分～。大島さんの合図で、2頭が体を回転させたりする姿も見学できる

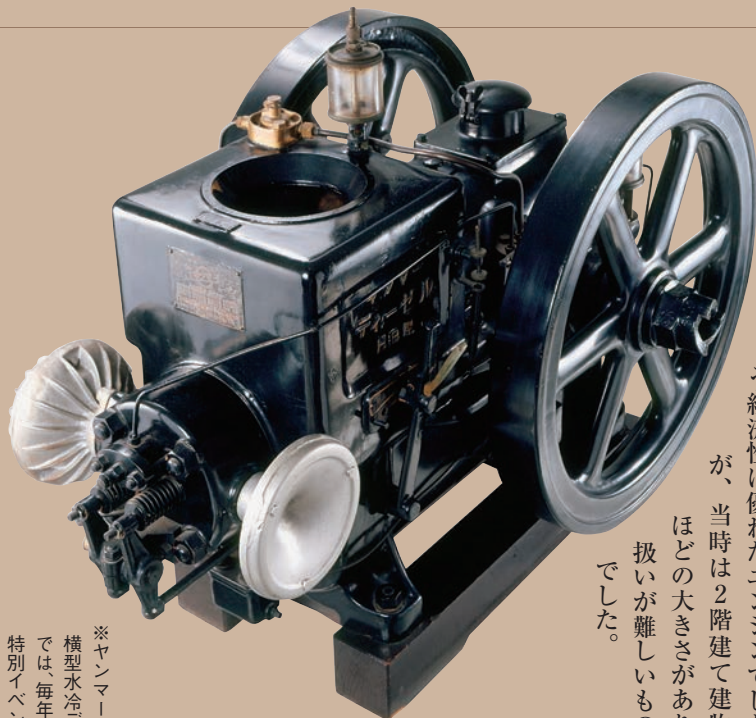
# 小型横型水冷ディーゼルエンジンHB型

ヤンマーミュージアム 伊東妃李子

これは、ヤンマーが世界で初めて小型実用化に成功した横型水冷ディーゼルエンジン「HB型」です。（出力／回転数…516馬力／5501650rpm、ボア×ストローク…110mm×190mm、気筒数…1、機関重量…500kg）

ディーゼルエンジンは、ドイツのルドルフ・ディーゼル博士により、1892年に発明され1897年にMAN社にて実用製品化されました。他のエンジンと比べ、安全で耐久性が高く、燃費がよく低質油でも使えるという経済性に優れたエンジンでした

が、当時は2階建て建物ほどの大きさがあり、扱いが難しいものでした。



ヤンマーは当時、主に石油エンジンを扱うメーカーでしたが、創業者である山岡孫吉が、ドイツのメッセ（見本市）でディーゼルエンジンに出会い、厳しい農作業を軽減する動力源としてこれ以上のものはないと、燃費がよく耐久性に優れたディーゼルエンジンの小型実用化に取り組むことを決意しました。

ディーゼルエンジンは、大型も小型もその原理自体は変わりませんが、燃焼条件が異なるため、小型小馬力になると技術的に大変難しく、先進国であるドイツでも商品化した例はありませんでした。しかし、「貧しい農村はもちろん、あらゆる分野においても、資源の乏しい日本では、燃料節約型のエンジンが欠かせない。近い将来石油エンジンを上回って動力機関の主役のひとつとなる。」とその将来性に確信を持っていた山岡孫吉は、小型ディーゼルエンジンの開発に熱意を注ぎました。

開発を始めてから約1年半後の1933年（昭和8年）12月23日、世界で初めてディーゼルエンジンの小型実用化に成功しました。人力で運べるまで小型化軽量化し、始動も容易な構造としたことで、農業の耒耨<sup>もみ</sup>り機や灌漑用ポンプの動力源として幅広く普及が進みました。以来、小型ディーゼルエンジンは日本国内のみならず世界中のあらゆる農業・漁業・建設業の現場などで、優れた動力源として活躍しています。

※ヤンマーでは、12月23日を「ディーゼル記念日」と定めており、この小型横型水冷ディーゼルエンジンHB型を展示しているヤンマーミュージアムでは、毎年「ディーゼル記念日特別企画」を開催しています。入館料の割引や、特別イベントなどを行っていますので、この機会に是非ご来館ください。

2007年 一般社団法人日本機械学会「機械遺産」に登録  
2009年 経済産業省「近代化産業遺産」に登録  
2012年 国立科学博物館「重要科学技術史資料（未来技術遺産）」に登録

## びわ博カルタ

— 見る知る楽しむ新発見 —

開催中～ 2017年 1月31日(火)

滋賀県立琵琶湖博物館



琵琶湖博物館の20年間の活動をふりかえり  
 その中で発見したことをかるた形式のパ  
 ネルをたどりながら楽しめます。発見の成  
 果だけではなく、過程や調査方法など博物  
 館活動の舞台裏についても紹介します。

観覧料：一般200円、高大生160円、小中生100円

休館日：月曜日（ただし10/10、1/2・9は開館、  
 12/26～1/1は休館）

お問い合わせ先：TEL 077 (568) 4811

## 琵琶湖誕生

— 日本・世界が見聞した琵琶湖 —

観峰館と栗東歴史  
 民俗博物館が共催す  
 本展では、近江・  
 滋賀県を象徴する琵  
 琶湖が、日本・世界  
 でどのように見聞さ  
 れ、認知されるよう  
 になったのかを考え  
 ます。



「日本・蝦夷図」  
 1659年頃 ヤンソン、J

開催中～ 11月20日(日)

観峰館

初公開の西洋の古地図や江戸・明治期の  
 版本、教科書などを展示します。

入館料：一般1000円、高校生・学生800円、中学  
 生以下無料（特別展「永源寺に伝わる書  
 画」と共通）

休館日：月曜日（祝日の場合は翌日、11/7(月)  
 は開館）

■ギャラリートーク  
 10月8日(土) 午後2時～

寺前公基 学芸員（観峰館）／中川敦之 学芸員  
 （栗東歴史民俗博物館）

お問い合わせ先：TEL 0748 (48) 4141

10月8日(土)～ 11月27日(日)

栗東歴史民俗博物館

『里内文庫資料』（滋賀県指定有形文化  
 財）を中心に江戸時代に作成された古地図  
 や地誌などを展示します。

入館料：無料

休館日：月曜日（10/10は開館）、10/11、11/4、  
 11/24

■ギャラリートーク

10月15日(土) 午後2時30分～

中川敦之 学芸員（栗東歴史民俗博物館）／寺前  
 公基 学芸員（観峰館）

■記念講演会

「近江八景の誕生とその広がり」

10月29日(土) 午後2時～

講師：鍛冶宏介 氏

（京都学園大学人文学部准教授）

参加費：200円（資料代）

お問い合わせ先：TEL 077 (554) 2733

## 鉄道のまち・まいばら

開催中～ 12月4日(日)

米原市醒井宿資料館

米原駅は、かつて機関区・客貨車区・貨  
 物駅などが設けられた鉄道の主要拠点で  
 あり、最盛期には1,000名を超える職員が  
 働いていました。本展では、米原機関区か  
 ら市に移された資料の中から、初公開の  
 「御召列車」に関する資料を中心に、市所蔵、  
 市民提供の貴重な鉄道資料を展示します。

入館料：一般200円、小中学生100円

休館日：月曜日、祝日の翌日

お問い合わせ先：TEL 0749 (54) 2163

## 珠玉の湖東焼

10月1日(土)～ 12月11日(日)

滋賀県立陶芸の森陶芸館

江戸時代後期に彦根城下で華開き、数々  
 の優品を生み出した「湖東焼」。日本各地  
 で収蔵される名品を一堂に集め、湖東焼の  
 全貌を紹介します。

入館料：一般700円、高大生500円、中学生以

下無料

休館日：月曜日（ただし、10/1～23は無休）



湖東焼（自然齋絵付）  
 「赤絵金彩玉堂富貴図皿」  
 江戸時代後期

■一般向け体験講座

11月20日(日) 午前10時30分～午後4時

「美しき豆皿をつくる」

参加費：3,500円（要事前申込）

12月4日(日) 午前10時30分～午後4時

「正月を祝う華やかなうつわを  
 上絵付けする」

参加費：4,500円（要事前申込）

■ひこにゃん珠玉の湖東焼展を鑑賞する

11月23日(水)祝

①午前11時10分～11時30分

②午後0時50分～1時10分

ご当地キャラクターの〈ひこにゃん〉が  
 彦根からご来館。お迎えるのは甲賀の〈に  
 んじゃえもん〉と信楽の〈ぼんぼこちゃん〉。  
 いっしょに展示を鑑賞しましょう。

お問い合わせ先：TEL 0748 (83) 0909

## つながる美・引き継ぐ心

— 琵琶湖文化館の足跡と新たな美術館 —

10月8日(土)～ 11月23日(水)祝

滋賀県立近代美術館

現在休館中の滋賀県立琵琶湖文化館が守  
 り伝えてきた、国宝・重要文化財を含む貴  
 重な仏教美術品等を中心に約75点を一堂に  
 展示します。これらは、2020年3月に生ま  
 れ変わる予定の新たな美術館に引き継がれ  
 る方針で、それらを通して、これまでの琵  
 琶湖文化館の取り組みと、これからの展望  
 をご紹介いたします。

観覧料：一般1100円、高大生800円、小中生600円

休館日：月曜日（ただし10/10(月)祝は開館、翌  
 10/11(火)は休館）

## 募 集

### 第20回 日本自費出版 文化賞

募集期間

2016年11月1日～  
2017年3月31日

#### 応募資格

制作費用の全額または一部を著者（個人・団体）が負担し、日本国内で2006年以降に出版され、主として日本語で書かれた一般書で、製本された著書が対象。

#### 募集部門

- ①地域文化部門
- ②個人誌部門
- ③小説部門
- ④エッセー部門
- ⑤詩歌部門
- ⑥研究・評論部門
- ⑦グラフィック部門

#### 応募方法

応募用紙に必要事項を明記のうえ、応募著書を1冊添えて文化賞事務局（下記）までお送りください。

応募手数料：2000円

#### 申し込み・お問い合わせ先

〒103-0001  
東京都中央区日本橋小伝馬町7-16  
ニッケイビル7F (社)日本グラフィックサービス工業会内  
NPO法人日本自費出版ネットワーク  
日本自費出版文化賞事務局  
TEL 03 (5623) 5411

#### 発 表

2017年9月上旬

#### 賞金／賞品

大賞：賞状／賞金 20万円  
部門賞：賞状／賞金 5万円  
特別賞：賞状／記念品  
入選：賞状

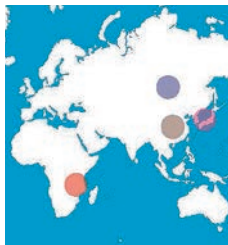
## 開館20周年記念国際シンポジウム

### 古代湖の魅力 ―琵琶湖と世界の古代湖―

10月22日(土) 午後1時30分～5時  
滋賀県立琵琶湖博物館

非常に長い間、湖が続いてきたために、そこにしかない固有の生き物をはぐくんできた湖を「古代湖」といいます。ロシアにある世界最古のバイカル湖や、アフリカのマラウイ湖、中国南部の湖といった世界の古代湖を例にして、豊富な映像を交えた各国の研究者による講演と、それぞれのテーマにあわせた琵琶湖の魅力についてのコメントを合わせてお聞きいただけます。

※各国の研究者の講演は、日本語による逐次通訳があります。



会 場 琵琶湖博物館ホール

定 員 200名（高校生以上） 参加費 無料

申込方法 くしがネット受付サービス」の申込フォームから、必要事項をお送りください。ご利用できない場合は、往復はがきに、1）行事名、2）参加者全員の氏名、年齢、郵便番号、住所、電話番号、3）一言メッセージをご記入の上、下記までお申し込みください。（申込締切 10月12日）  
※応募者多数の場合は、抽選となります。

〒525-0001 草津市下物町1091

滋賀県立琵琶湖博物館

#### 講演1「バイカル博物館とバイカル湖(仮)」

講 師 V. A. Fialkov 氏（バイカル博物館館長）

コメント「琵琶湖の無脊椎動物相の多様性とその固有性」

M. J. Grygier 氏（琵琶湖博物館上席総括学芸員）

#### 講演2「アフリカマラウイ湖における

シクリッドの多様性と生態」

講 師 B. B. Rusuwa 氏（マラウイ大学准教授）

コメント「琵琶湖と固有魚類相の成り立ち」

渡辺勝敏 氏（京都大学准教授）

#### 講演3「長江流域における湖沼、

魚類の多様性と人間活動の影響」

講 師 何舜平 氏（中国科学院水生生物研究所教授）

コメント「琵琶湖の漁業と人々のくらしの変化」

藤岡康弘 氏（元滋賀県水産試験場場長）

お問い合わせ先 TEL 077 (568) 4811（代表）

## ■日曜美術鑑賞会

「琵琶湖文化館が支えた滋賀の名宝」  
10月16日(日) 午後1時30分～3時

場所：滋賀県立近代美術館講堂・企画展示室

講師：和澄浩介（滋賀県立近代美術館学芸員）



国宝  
透彫華籠（神照寺）

## ■記念シンポジウム

11月6日(土) 午後1時30分～4時10分

会場：滋賀県立近代美術館講堂

〔基調講演〕

講師：石丸正運 氏（名都美術館館長）

佐々木建 氏（元栗東歴史民俗博物館館長）

〔パネルディスカッション〕

司会：和澄浩介（滋賀県立近代美術館学芸員）

お問い合わせ先：TEL 077 (543) 2111

## 飛鳥から近江へ

―天智天皇の意図を探る―

10月22日(土)～12月4日(日)

滋賀県立安土城考古博物館

近江遷都前後の時期の滋賀県とその周辺地域の特質を示す考古資料を展示。667年からの5年間、「近江になぜ都が営まれたのか」について考えます。

入館料：大人890円、高大生630円、小中生410円

休館日：月曜日

## ■記念講演会

「天智天皇と近江遷都

―中大兄皇子の実像に迫る―

10月30日(日) 午後1時30分～（受付は1時～）

講師：大橋信弥 氏

（元滋賀県立安土城考古博物館学芸課長）

会場：当館セミナールーム

定員：140名（当日先着順）

参加費：500円

お問い合わせ先：TEL 0748 (46) 2424



## 琵琶湖博物館ブックレット2 湖と川の寄生虫たち

浦部美佐子 著

A5判並製本 総120頁 1500円＋税

寄生虫を媒介にさまざまな生物どうしのつながりが見えてくると語る著者が、淡水魚貝類から見つかる寄生虫に関する基礎知識と、やさしい観察方法や標本の作り方を解説。

## 琵琶湖博物館ブックレット3 イタチムシの世界をのぞいてみよう

鈴木隆仁 著

A5判並製本 総120頁 1500円＋税

愛嬌のある姿と動きからひそかに人気を集めつつある水生微小動物イタチムシ。その生態、身体の特徴とともに、水田に棲息する多様な水生生物について紹介。



## 鬼の念仏

中川法夫 著

四六判並製本 総256頁 1500円＋税

平安・江戸・明治、そして現代の琵琶湖畔に生きる男女の愛の形。江戸時代の近江追分を舞台に、大津絵と豊臣残党狩りを題材にとった表題作「鬼の念仏」（滋賀県文学芸術文化祭賞受賞）をふくむ、小説4篇を収録。

## 朝倉克己さんの2冊が 日本自費出版文化賞 〈地域文化〉部門賞を受賞！



9月7日、第19回日本自費出版文化賞（日本グラフィックサービス工業会主催、朝日新聞社など後援）の最終選考が行われ、7つの部門賞のうち、〈地域文化〉部門の部門賞に、朝倉克己著『近江絹糸「人権争議」はなぜ起きたか』と『近江絹糸「人権争議」の真実』の2冊（ともにサンライズ出版刊）が選ばれました。書店にて発売中（各1600円＋税）。

**表紙写真** 滋賀県立琵琶湖博物館・水族展示のニューフェイス  
バイカルアザラシのバイくん（8ページ参照）

**編集後記** ご覧のとおり、バイくんはかなり芸達者。彼の動きは、単なる入館者へのサービスではなく、体調管理のためのトレーニングの成果なのだそうです。「くるくる回ってもらふことで体の背側や後肢（後ろ足）の動きを、前肢（前足）をバイバイのように振ってもらふことで、前肢の動きや爪の状態、体のバランスなどをチェックできます」と、学芸員の大島由子さん。㊥



## 淡海文庫56 戦時下の滋賀師範 —昭和18年の卒業生—

滋賀県平和祈念館 編

B6判並製本 総184頁 1200円＋税

滋賀県平和祈念館の企画展示で紹介された体験談を増補、解説も大幅に加筆し書籍化。いやおうなく戦争に巻き込まれていった滋賀師範学校（現滋賀大学教育学部）の学生たち。

## 決定版 三成伝説 —現代に残る石田三成の足跡—

オンライン三成会 編

A5判並製本 総184頁 2000円＋税

三成ゆかりの史跡を訪ね、各地に残された伝説の「真実」を探る。ファン組織が、国内各地はもちろん韓国にも足をのぼして関連史跡をたどった三成本の決定版。



## 縁 ENISHI

絵画を愛した美知子の作品集



川副美知子 画

AB判並製本 総64頁 頒価3000円

**問合先** 東近江市妹町503（発行者：川副洋次）

昨年、東近江市教育委員会委員長2期目の任期中に、がんのため62歳で逝った著者が遺した絵画作品200点余りを収録。（2016.9.20刊）

## 私の教員・考古学事始

入江文敏 著

四六判並製本 総206頁 非売品

**問合先** 福井県三方上中郡若狭町田井107-10（著者）

若狭の地で、小・中学校、県立高校に勤務するかわら、古墳時代の遺跡調査にたずさわってきた著者が、自らの歩みをもとに「歴史を学ぶことの意義」を考察。（2016.10.1刊）



Duetの定期購読をご希望の方は、下記までお申し込みください。

〒522-0004 滋賀県彦根市鳥居本町655-1

サンライズ出版株式会社 Duet 編集部

TEL (0749) 22-0627 FAX (0749) 23-7720  
(振替) 01080-9-61946

インターネットでDuetがお楽しみいただけます。

<http://www.sunrise-pub.co.jp/>